



兵庫教育大学の 研究者養成

学校教育や教師教育に関わる研究者の養成は、兵庫教育大学の重要な使命の一つです。従前は、研究者養成は本学の本来の役割として必ずしも明確に意識されていたわけではありませんが、結果として、大学院修士課程の現職教員の修了生の中には、教員養成大学や学部の教職課程を担当している方が相当数います。最近、教職大学院に関わっている修了生に各地で出会うことが多くなっています。また、全国各地の教育センターで学校教育や教員研修の研究に取り組んでいる方もたくさんおられます。

現在は、研究者養成を「学校教育に関する理論と実践を融合した研究(教育実践学)を推進し、優れた研究者を養成します」との表現でミッションに位置付けています。文科省と協議して作成した「ミッションの再定義」(平成25年12月公表)の中に、「連合学校教育学研究科(博士課程)では、教育実践学コンピテンシーに基づいて、新しい教員養成教育を担う優れた実践的研究者を養成する」と明記されたように、研究者養成は主に連合大学院博士課程(兵庫教育大学を基幹校として上越教育大学、岡山大学、鳴門教育大学で構成)において遂行されます。

本学博士課程の研究者養成の特色は、ミッションに明らかなように、教育実践学を推進する研究者の養成であることです。教育実践学とは、学校教育の実践事例を理論によって意味付ける、再解釈する、あるいは分析するなりして、新たな実践を創る、また創られた実践の積み重ねによって新たな理論を開発する研究です。このような教育実践学を推進する力量を身に付けた研究者は、特にこれからの日本の教師教育において有用性が高いといえます。

一昨年8月の中教審答申と、その中の当面の改善策を検討した昨年10月の協力者会議報告書が契機となって、教職大学院を中心とした大学院での教員養成教育が拡充されようとしています。大学院修了の新人教員は、高い専門性と実践の指導力を備えたより即戦力に近い人材でなければなりません。そのために、大学院のカリキュラムには、高度な専門的内容とともに、長期間の実習や初任者研修的内容が含まれる必要があります。こうしたカリキュラムの担当者は教育実践学の研究者が最適といえるでしょう。

大学院における教員養成教育は即戦力に近い新人教員の養成が目的ですので、大学教員には自ずと、高度な研究能力に加えて、学校現場の実務に通じていることが求められます。また、こうした大学教員であれば、学校教育実践上の課題解決やそのための力量形成を求めて大学院に学び直しに来る現職教員のニーズにもよりの確に答えることができるでしょう。

入学者の多くが初等・中等教育学校の教員経験者であることも、本学博士課程の特色です。彼らが実務経験の上に、研究能力を修得してこうした新しい教師教育を担うことが期待されます。もちろん、実務経験のない博士号取得者も貴重な人材であり、大学入職後に現場経験を積む仕組みもつくられる必要があります。

このような教師教育分野の大学教員像の変化が影響しているのかもしれませんが、最近とくに現職教員の博士課程受験者が増えています。今後の教師教育では教育実践学の研究者へのニーズがますます高くなると思われますので、博士課程の入学定員増を検討しているところです。

か じ さ て つ や
学 長 加 治 佐 哲 也